

第59次南極地域観測隊(JARE59)

「海鷹丸」による海洋観測

ねらい

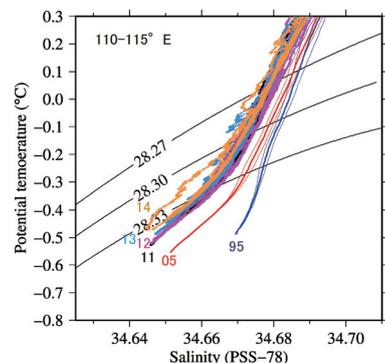
地球温暖化に伴う水温上昇、低層水形成量の変動、物質循環、生態系の変化を中長期的な観測を通して捉える
「しらせ」と連携して漂流系観測を実施し、海水融解期の生態系動態解明を目指す



CTDシステムによる深層水観測



東京海洋大学 「海鷹丸」



基本観測データにより明らかになった南極底層水の昇温と低塩分化



「しらせ」と連携して実施される海水融解期の漂流系観測



ニスキンによる深層海水採取



海洋生態系を構成する生物群をネットにより定量観測する。



氷縁域において海水を採取し、海水中生物群集の動態を追う。



ナンキョクオキアミと並び、南大洋インド洋セクターの鍵種と考えられるハダカイワシ科魚類の仔魚。これまでの調査から、その初期生活史は海水と密接に関係していることが予想されている。

- ・南大洋における海洋環境、および生物環境の中長期的な変動を捉えるとともに、その変動プロセスの解明を目指し、貴重なデータを蓄積する。
- ・海水融解期の海水下生態系観測を実施し、海水中生物群集の放出からはじまる生態系動態と物質循環の理解を目指す。



気候変動の世紀における、南大洋の実態と役割を解明し、将来予測モデルの精緻化へ貢献